

平成25年度

事業報告書

社会福祉法人 三恵会

目 次

三恵会本部

特別養護老人ホーム きぼうの苑

障害者支援施設 あゆみ苑

ケアハウス 夢テラス

障害者支援施設 三恵ホーム

デイサービスセンター えぐも

児童福祉施設 十全保育園

特別養護老人ホーム ハートランド三恵

老人保健施設 リハビリステーション三恵荘

老人保健施設 希望の館

通所介護事業所 おいでんや

多機能型事業所 わくわくクラブ

放課後児童クラブ ともだちパ-ク

地域子育て支援拠点事業 にこちゃんパーク

地域密着型特別養護老人ホーム うみかぜ

グループホーム かがやき

児童福祉施設 中萩保育園

養護老人ホーム 慈光園

三 惠 会 本 部

常務理事 松尾 公子
本部長 神野 師算

平成25年度 事業報告

1. 経営方針

平成25年度は、三恵会創立40周年を迎え、三恵会の歴史と創業の原点を振り返り、地域の声に応え「頼れるお隣さん」として、更なる飛躍発展を目指すべく経営戦略計画を策定いたしました。

この経営戦略のキャッチフレーズを「良質な福祉サービスの提供をめざして」とし、改めて経営理念に掲げる「誠実な福祉」「確実な知識と技術」「堅実な経営」を遂行するべく、全職員が決意を新たにいたしました。

この二年間、新居浜市では新たな施設の参入や、感染症の発生による利用者様の受け入れ休止等や電気料金の値上げ等により、収支差額の減少が続いております。そのような状況下においても社会貢献事業としての放課後児童クラブともだちパークや地域子育て支援事業にこちゃんパークの事業を維持するとともに養護老人ホーム新居浜市立慈光園の指定管理者として管理運営を受託し、新居浜市政に貢献しています。

収支差額が赤字と苦戦している事業もある反面、開設以来、最高の収益を得ている施設もあり、全体として職員の経営意識が伺え、人材も育って来ているという明るい展望も見えています。

経営の原動力は、なんといっても人材です。昨年度は、人材育成に特に力を入れ、接遇研修には全職員に受講させ、階層別研修の実施、介護職員の技能オリンピックとも称されるオールジャパンケアコンテストへの参加等、各種研修会、勉強会へ参加の機会を多くし、人材育成に重点を置きました。

また、職員間、施設間の交流とチームワークの醸成の場づくりとしての「法人内レクバレーボール大会」も開催いたしました。その結果、参加した職員の融和協力の意識（連帯感）が芽生え始めた実感しています。

中萩保育園は、移管後二年目の第三者評価を受けた結果、職員の努力が実り、保護者、行政、報道関係者からも高い評価を得ることができました。

指定管理を受け1年目の慈光園においては、当初予算より約3千万円の削減を達成するなど、職員の努力が見られた1年となりました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 『質の高いサービスの実現』をめざして

サービス提供方針の明確化

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。

業務手順・マニュアルの策定及び見直し

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。

職員の教育・研修の実施

(ア) 法人内研修

新任職員研修

4月1日～4月2日実施 新入職員17名

階層別研修

- ・若年層向け研修 ～組織人としての考え方基本行動の基礎～

参加者 30名

第1回 平成25年11月 6日

第2回 平成25年12月11日

第3回 平成26年 1月22日

- ・中堅層向け研修 ～組織人としての考え方基本行動の基礎～

参加者 28名

第1回 平成25年 9月25日

第2回 平成25年10月23日

第3回 平成25年11月20日

- ・中堅層向け研修 ～リスクマネジメント研修～

参加者27名

第1回 平成26年 1月24日

第2回 平成26年 2月21日

第3回 平成26年 3月20日

接遇研修会

第1回 平成25年 9月28日(土)新居浜市開催

参加者 153名

第2回 平成25年11月 7日(木)東温市開催

参加者 81名

第3回 平成26年 2月18日(火)新居浜市開催

参加者 153名

三恵会研究発表会

第6回三恵会研究発表会を、平成26年 3月 1日(土)に開催。
各施設の代表がこれまでの業務事例や症例研究内容をもとに発表を行った。

発表演題 11題 ・ 参加者 116名

(イ) 法人外研修

全国社会福祉協議会主催

- ・社会福祉法人経営者研修会

7月 2日～ 7月 4日 1名参加

・施設長実学講座

8月19日～ 8月21日 2名参加

10月24日～ 10月25日 1名参加

全国社会福祉法人経営者協議会主催

・社会福祉法人 主任/係長講座

7月11日～ 7月12日 1名参加

・社会福祉法人経営者講座

7月22日～ 7月23日 2名参加

1月20日～ 1月21日 2名参加

・初級リスクマネージャー養成講座

12月 3日～ 12月 4日 1名参加

2月24日～ 2月26日 1名参加

全国社会福祉法人経営青年会主催

・全国社会福祉法人青年経営者会専門講座

10月 1日～ 10月 2日 1名参加

中・四国地区社会福祉法人経営者協議会主催

・中・四国地区社会福祉法人経営者セミナー

7月11日～ 7月12日 2名参加

オールジャパンケアコンテスト実行委員会主催

・オールジャパンケアコンテスト

11月11日～ 11月12日 8名参加

職員参加による改善の取組

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。
リスクマネジメント体制の構築（事故、災害、賠償責任、リーガル・リスクなど）

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。
危機管理体制の充実【防災計画の整備・感染症対策など】

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。
説明責任の徹底（情報開示、情報提供、苦情相談等への対応、利用者・家族・関連機関等への説明力アップなど）

施設管理者会などでの事故事例の共有など、施設相互の情報共有を図るなど説明力向上への取り組みを始めました。

（2）『質の高い経営の実現』をめざして

トータルな人材マネジメントシステムの構築

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。

組織統治（ガバナンス）の確立

経営戦略計画を策定することにより、法人本部の組織統治力の向上に努めた。引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。

財務基盤の安定

新会計基準への移行を行った。

引き続き、経営戦略計画の実施計画策定段階で検討してまいります。

（３）養護老人ホーム新居浜市立慈光園の円滑な運営

財政面での節約、入所者への生活支援等について、新居浜市から直営時より良くなったとの評価を得ています。

特別養護老人ホーム
きぼうの苑

施設長 徳永 仁

平成 25 年度 事業報告

1 . 経営方針

平成 25 年度は、職員一人一人が介護の質の向上を目指し、介護の基本に基づいた介助と援助、科学的根拠に基づいた介護力向上への取り組みを行った。多職種と連携を図りながら、「十分な水分摂取による覚醒、トイレ誘導、紙おむつ 0 活動」などに努めた。

また、全職員を対象とした接遇マナーの研修を実施、ご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇対応とコミュニケーションに努めた。ご利用者の情報を共有し、説明力アップに努めると共にご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯な対応と説明を行った。

地域における在宅支援には、他施設や包括支援センター、訪問介護事業所等々他サービス事業者との情報交換や緊密な連携は欠かせない要素である。ご利用者の在宅での健康な生活を維持、支援するための介護計画の立案、担当者会、適切なサービスの提供を行なった。

近年、入所者の高齢化が著しく、要介護度が 4、5 の高齢の入所者が大幅に増えている。できる限り経口摂取という方針で食事介助を行うなかでの誤嚥のリスクは大きくなってきている。また、認知症による徘徊等により、ベッドや車椅子からの転落やトイレでの転倒による打撲、骨折等のリスクも大きくなってきている。今年 3 月には 2 件の誤嚥事故が起き、ご利用者、ご家族に大変ご迷惑をおかけした。原因の検証や職員への指導・研修を実施し、再発防止を職員全員に徹底した。今後これらのリスクに対し最大限の取り組みを行い、事故防止に細心の注意を払い、入所者の安らかな生活をサポートしていく所存である。

感染症については、一昨年の教訓をもとに職員が一丸となって対策に取り組んだ結果、ご利用者にノロウイルス、インフルエンザの感染者はなかった。来年度以降も油断することなく徹底した感染症対策を実施したい。

また、障害者雇用の取り組みとして、施設見学会等を実施し、採用へと繋げることが出来た。介護職、調理員等の人材確保（一般求人）においても様々な対策を行ったが、十分な採用には繋がらなかった。人(人材)が集まる施設を目指して継続して取り組んでいきたい。

昨年度、三恵会は 40 周年を迎え「おかげさまで 40 周年」の法人としてのサンクスワードにやすらぎの郷の「感謝の気持ちを笑顔にかえて」を加えたキャッチフレーズを全職員が自覚し、これまでの感謝を挨拶、笑顔に込めて介護サービスを行った。

2 . 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

40 周年を迎え、職員全員が「感謝の気持ちを笑顔にかえて」を実践

職員とご利用者の信頼関係強化

オ・ア・シ・ス運動の継続

入所生活や身体状況の家族への細やかな情報提供

利用者の特性把握と最適サービスの提供

(2) 「確実な知識と技術」の修得

各部署の連携強化による施設チーム力のアップ

介護事故、苦情等の原因分析及び説明力のアップ

外部研修の活用と知識・技術の専門性の向上

専門講師の実践的技術指導による確実な技術習得

老協協の取組み、「科学的介護への挑戦」の実践

- (3) 「堅実な経営」への取組み
 ご利用者・職員を取り巻く環境のリスクマネジメント
 事故等発生時の県・市・関係機関等への速やかな報告と連携
 空室期間の短縮を図る効率的な入所
 人材の確保と定着
 ホームページへのブログでの最新情報の発信

3. 研修計画

(1) 施設内

三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

自主研修

4月 職員の心構え等	10月 感染症予防について
5月 服務規程について	11月 認知症ケアへの対応について
6月 食中毒予防について	12月 メンタルヘルスについて
7月 リスクマネジメントについて	1月 ターミナルケアについて
8月 虐待防止について	2月 プライバシー保護について
9月 身体拘束廃止について	3月 褥瘡防止について

(2) 施設外

老人福祉施設協議会関係

全国 四国 愛媛県 東予地区 各協議会 四国地区老人福祉施設大会

栄養士関係 愛媛県 東予地区 新居浜市 各栄養士研修 特定給食施設研修

新居浜市病院栄養士 栄養指導者研修 栄養ケアマネジメント研修

介護職員関係 認知症 指導者養成研修 介護技術向上研修

介護支援専門員 愛媛県 新居浜市 県社協主催研修

4. 行事計画(年間)

4月 花見 家族会総会	10月 太鼓祭り 社会見学 運動会 防火訓練
5月 神事 新緑ドライブ 機関誌発行	11月 文化祭 紅葉見物 焼き芋
6月 運動会 外食 菖蒲見学	12月 忘年会 お餅つき クリスマス 大掃除
7月 七夕 ピアホール ワークキャンプ	1月 お正月 初詣 新年会 機関誌発行
8月 慰霊祭 盆踊り ソーメン流し	2月 節分 バレンタイン
9月 敬老会 観月会 機関誌発行	3月 ひな祭り ホワイトデー 防火訓練
毎月第4金曜日 居酒屋	各クラブ活動 定期的実施

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

交流事業

やすらぎの郷文化祭 西の土居花見 各自治会活動・公民館活動
 校区運動会・文化祭への参加と協力(久保田・滝宮・金栄・西の土居)
 施設見学の受入れ、ふれあいサロンの実施(金栄、西の土居、政枝、
 久保田、若水) 校区ソフトボール大会

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

地域清掃 生き生きフェスティバル 地元自治会活動への協力

ボランティアの受入

新居浜工業高等学校 新居浜商業高等学校 新居浜南高等学校 天理教
金栄福祉ボランティア団体 金栄婦人会 若く明るく歌を歌う会
語り部演奏 琴演奏 ハープ演奏 少林寺拳法 マンドリン演奏 大正琴演奏
絵手紙教室 習字 フラダンス クラシック演奏 昔話披露 三味線演奏
フォークダンス 口腔ケア衛生管理

(3) 実習生の受入

学校等

十全看護専門学校 松山東雲短期大学 河原医療福祉専門学校
今治明德短期大学 新居浜商業高等学校 四国中央医療福祉総合学院
体験学習 新居浜市役所 教員免許特例法による介護体験
養成機関(ヘルパー)介護労働安定センター シルバー人材センター
ビーイング

6. 入所利用者状況 (平成26年3月31日現在)

(1) 年齢

	59以下	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100以上	合計	平均
男	0	1	1	0	3	4	7	1	1	0	18	82.4
女	0	0	2	4	8	23	23	22	13	5	100	86.4
合計	0	1	3	4	11	27	30	23	14	5	118	84.4

(2) 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要介護度平均
男	0	0	2	3	13	4.61
女	2	13	12	28	45	4.01
合計	2	13	14	31	58	4.10

(3) 認知性老人の自立度状況

	自立		a	b	a	b			合計
男	0	0	1	1	4	4	5	3	18
女	0	1	10	12	19	18	20	20	100
合計	0	1	11	13	23	22	25	23	118

障害者支援施設
あゆみ苑

施設長 徳永 仁

平成25年度 事業報告

1. 経営方針

平成25年度目標「総合的な危機管理の強化」の1つである感染症予防については、一昨年度の学びから手洗い・うがい・マスク等の励行強化によりご利用者、職員ともに無事1年を過ごすことができた。

感染症以外にも事故防止対策、地域との連携による防災対策、利用者・職員の心の健康と安全を守るためのメンタルヘルスケアなどの総合的なリスクマネジメントについて、管理者が先頭となり、職員の意識を高め、具体的な方策を推進した。

また、全職員を対象とした接遇マナーの研修を実施、ご利用者、ご家族に対する笑顔での接遇対応とコミュニケーションに努めた。ご利用者の情報を共有し、説明力アップに努めると共にご利用者、ご家族からの要望や苦情等については真摯な対応と説明を行った。

昨年4月「障害者自立支援法」から「障害者総合支援法」へと制度移行されたが、「ご利用者自らセルフマネジメントできるよう目的意識・意欲を引き出す支援をする」ことへの取り組みと社会生活の実践体験の場の提供を継続して行っていきたい。日中活動への参加率の格差解消に向けた職員・ご利用者の意識改革も進めていきたい。

昨年度、三恵会は40周年を迎え「おかげさまで40周年」の法人としてのサンクスワードにやすらぎの郷の「感謝の気持ちを笑顔にかえて」を加えたキャッチフレーズを全職員が自覚し、これまでの感謝を挨拶、笑顔に込めて介護サービスを行った。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

ご利用者の自己実現（セルフマネジメント）への支援

ご利用者満足に向けたアセスメントとモニタリングの見直しと強化

地域社会との交流、繋がり強化に向けた積極的な関わり

職員とご利用者の信頼関係強化

40周年を迎え、職員全員が「感謝の気持ちを笑顔にかえて」を実践

(2) 「確実な知識と技術」の修得

危機管理への意識向上に向けた継続的な研修会・勉強会の実施

リスクの減少に向けた報告・連絡・相談の徹底

職員に対して制度への理解と情報共有の徹底

説明力向上のための介護技術の習得

(3) 「堅実な経営」への取り組み

各種加算の見直し、稼働率を意識した利用者数の確保

採算を意識した適正な支出の検討

人材育成システムと職場環境の見直しと強化

3. 研修計画

(1)施設内(きぼうの苑と合同)

三恵会本部主催

新人研修 研究発表研修 他

自主研修

4月	職員の心構え等	10月	感染症予防について
5月	服務規程について	11月	認知症ケアへの対応について
6月	食中毒予防について	12月	メンタルヘルスについて
7月	リスクマネジメントについて	1月	ターミナルケアについて
8月	虐待防止について	2月	プライバシー保護について
9月	身体拘束廃止について	3月	褥瘡防止について

(2)施設外

中四国身体障害者療護施設協議会施設長会(研修会)・施設職員研修大会

愛媛県身体障害者療護施設協議会施設長会・施設職員研修会

愛媛県障害者相談支援従事者研修

愛媛県障害程度区分認定調査員研修

通所施設直接処遇職員研修会、サービス管理責任者研修

4. 行事計画(年間)

4月 花見 公共乗り物での外出

5月 日帰り旅行 地元商店街めぐり 愛媛県障害者スポーツ大会

6月 ファッションショー 合同運動会

7月 七夕 花火 ピアガーデン(施設内外) 素麺流し 日帰り旅行

8月 慰霊祭 盆踊り カラオケ大会 帰省の奨励

9月 観月会 日帰り旅行 バーベキュー

10月 日帰り旅行 地方祭 料理 防火訓練 帰省の奨励

11月 文化祭 紅葉狩り 街中ツアー 料理

12月 クリスマス会 忘年会 餅つき 年末年始の帰省の奨励

1月 初詣 書初め 新年会 料理

2月 節分 バレンタイン イチゴ狩り

3月 ひな祭り 運動会 防火訓練 書類整理

* 定期行事: 買い物、外出、買い物訓練、誕生者外食、居酒屋(第4金曜)、陶芸、お茶会
介護教室、フラワーアレンジメント、料理教室

* クラブ活動: 習字クラブ(月2回)、生花クラブ(月1回)

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1)地域交流

やすらぎの郷文化祭、施設見学の受け入れ、他施設行事への参加、外出行事による社会参加、来苑ボランティアとの交流、校区芸能発表会、校区運動会、校区文化祭、校区ソフトボール大会、校区ケアネットワーク

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

地域清掃、地元自治会活動への協力、生き生きフェスティバル

ボランティアの受け入れ状況

愛媛県立新居浜工業高校、愛媛県立新居浜商業高校、愛媛県立新居浜南高校、天理教、金栄福祉ボランティア団体、金栄婦人会、語り部演奏、琴演奏、ハーブ演奏、若く明るく歌を歌う会、少林寺拳法、マンドリン演奏、大正琴演奏、絵手紙教室、習字、フラダンス、クラシック音楽演奏、口腔ケア衛生管理、昔話披露、三味線演奏、フォークダンス披露

(3) 実習生の受け入れ

< 学校関係 >

今治明德短期大学、松山東雲短期大学、河原医療福祉専門学校、四国中央医療福祉学院

6. 利用者状況 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

(1) 年齢 ()・・・入所支援

	19 以下	20 ~ 29	30 ~ 39	40 ~ 49	50 ~ 59	60 ~ 65	66 以上	合計	平均
男	1 (0)	1 (0)	1 (0)	5 (3)	10 (1)	11 (3)	5 (5)	34 (12)	52.5 (60.0)
女	4 (0)	0 (0)	2 (1)	4 (0)	9 (3)	8 (1)	3 (3)	30 (8)	47.4 (58.1)
合計	5	1	3	9	19	19	8	64	52.9

(2) 障害者程度区分 ()・・・入所支援

	1	2	3	4	5	6	合計	平均
男	0 (0)	3 (0)	10 (2)	4 (0)	6 (4)	11 (6)	34 (12)	4.4 (5.2)
女	0 (0)	1 (0)	9 (2)	5 (1)	4 (2)	11 (3)	30 (8)	4.5 (4.8)
合計	0	4	19	9	10	22	64	4.4

ケ ア ハ ウ ス
夢 テ ラ ス

施設長 徳永 仁

平成25年度 事業報告

1. 経営方針

平成25年度は比較的入居者が少なく、また、安定した施設運営が行えた1年でしたが、現在入居されている夢テラスの利用者の方々も高齢となっており、それに伴い、身体面、精神面の状態が低下し、これまでの生活を継続することが困難になるケースが見受けられるようになってきた。個々の状態に合わせたケアハウスでの生活が継続できるよう支援に努め、必要に応じてご家族や関係事業所との連携を図りながら、在宅サービス利用の手配等を行い、入居者の施設の長期利用維持に繋げている。夫婦のご利用者が入居したことも、施設運営にプラスの要因となった。

しかし、突然の思わぬ病気の発覚やADLの低下、金銭面の不安から退居を余儀なくされるケースもあった。退居に際しては本人やご家族への十分な説明と各関係機関との連携に努めながら、スムーズな手続き、手配を行い、安心して次の生活が送れるように支援を行った。退居に伴う新規の入居については、入居待機者の中に高齢化に伴う心身への不安を持つ方が多く居たため、関係部署と相談しながら受入を行い、長期利用に繋がる支援の方法を検討した。

今後も利用者が高齢化、虚弱化しても、少しでも長期の生活(利用)ができるよう、施設の環境整備、職員の知識や技術の向上に努めながら、安定した施設運営を目指していきます。

あわせて、施設の特徴をつくり、幅広く入居希望者を確保するとともに、入居者の皆様が安心して生活できるよう支援していきたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1)入居者の高齢虚弱化傾向への対策と予防

利用者のADLの状況を常に把握し、ご家族や各関係機関と連携を図った。

在宅サービスの利用や医療機関の受診促進など対応・調整を迅速に行った。

行事への参加を促したり、外部との交流の機会を確保することにより、入居者の心身の充実を図った。

(2)快適な生活環境づくり

入居者の状況に合わせた支援や声かけ、在宅サービス利用の手配を行い生活上の利便性の向上に努めた。

入居者がより安心、安全に生活できるように施設設備を点検し改善等を行った。

(3)入居者の確保

現在入居のご利用者に対しては、個別支援や行事への参加などを通じて、施設を長期で利用できるよう支援を行った。

新規入居者確保のため、パンフレットやホームページなどを活用して広報活動を行なった。

施設見学者、実習生、ボランティア等にその都度施設の概要を丁寧に説明・PRし、口コミによる入居者確保に繋がるよう努めた。

(4)相談・援助関係

日頃からの入居者との関わりや茶話会等の行事を通じて、個々のニーズを把握することに努めた。特に、食事に関しては、関係部署と連携して改善を行い、献立に反映させるよう努めた。

施設内外の行事への積極的な参加を促し、入居者の心身の充実を図った。

入居者の日々の心身の状況の観察と把握を行い、入居者それぞれの状態に合わせた支援の提供を行った。

緊急時も関係部署と連携し、夜間も含めた包括的な支援への対応を行った。

3. 研修計画

- (1) 施設内...感染予防研修、職員勉強会(毎月)の実施、接遇研修、認知症研修、食中毒予防、リスクマネジメント、認知症ケア、メンタルヘルスケア他
- (2) 施設外...全軽協四国ブロック研修会他への参加

4. 行事(年間)

ケアハウス行事

茶話会 誕生会 買物クラブ シャクヤク見物 そうめん流し 花火 敬老会
 上部乳児保育園交流会 忘年クリスマス会 新年会 節分・豆まき イチゴ狩り
 やすらぎの郷行事参加
 なかよしクラブ 花見 太鼓台見物 運動会 神事 ビアガーデン 慰霊祭・盆踊り
 ハートランド・三恵荘夏祭り 少林寺拳法交流会 観月会 防災・防火訓練 文化祭

5. 地域交流、ボランティア、実習生

- (1) 地域交流
 - ・地域公民館行事、上部乳児保育園 各種ボランティア団体交流 地域太鼓台
- (2) ボランティア、実習生
 - ・ケアハウスの事業、業務の説明、施設見学等に随時応じ、利用者との交流

6. 入所利用者状況 (平成26年3月31日現在)

(1) 月別利用者数 (各月1日現在) 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	10	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11	10	128
女	14	14	13	14	16	16	16	16	16	16	15	14	180
合計	24	24	23	25	27	27	27	27	27	27	26	24	308

(2) 月別居室稼働率 (各月1日現在) 室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2F(室)	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13	12	12	150
3F(室)	12	12	11	12	13	13	13	13	13	13	13	11	149
合計	24	24	23	24	26	26	26	26	26	26	25	23	299
稼働率(%)	92.3	92.3	88.5	92.3	100	100	100	100	100	100	96.2	88.5	平均 95.8

(3) 入居者年齢 人 歳

	69歳以下	70~74歳	75~79歳	80~84歳	85~89歳	90歳以上	合計	平均
男	0	0	2	1	5	2	10	85.0
女	0	1	2	5	1	5	14	84.6
合計	0	1	4	6	6	7	24	84.8

(4) 要介護認定状況 人

	非該当	要支援	要支援	要介護1	要介護2	要介護3~5	合計
男	1	1	1	3	3	1	10
女	2	0	2	8	0	2	14
合計	3	1	3	11	3	3	24

障害者支援施設
三 恵 水 一 ム

施設長 渡部 雅人

平成 2 5 年度 事業報告

1 経営方針

利用者は、新しい施設に慣れ、安心して日常生活を送って頂けるようになった。ユニット体制で提供するサービスに良い面、悪い面が浮き彫りとなったが、その都度、利用者に快適な生活を送っていただけるよう検討を行い、改善すべき事項は改善に努めた。また、より家庭的な雰囲気の中で明るく楽しい生きがいのある日常生活を過ごしていただけるようにするため、健康管理、機能訓練、レクリエーションや趣味などの日中活動の充実を図った。

平成 2 6 年 2 月から 3 月までの間は、長期にわたる風邪症状の利用者が多数発生した。感染防止対策委員会が中心になり、施設内の感染症を防止するため、対策を徹底して実施した。その結果、利用者にはご不便をおかけしたが、感染の拡大を防止することができ、インフルエンザやノロウイルスの感染者を出さずに収束することができた。

職員は、知識・技術・接遇マナーなどのレベルアップにつながる研修に参加し、提供するサービスの質の向上に努めた。介護職員による喀痰吸引は、前年度に引き続き、生活支援員 1 名が受講し、認定証を受けた。今後も、喀痰吸引ができる職員の確保に努める。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 健全な経営体制の確立

健全経営につながるよう効率的な職員配置に努めた。

喀痰吸引を行える生活支援員 1 名を確保できた。現在では 3 名の介護福祉士が認定証の交付を受けている。

障害者福祉サービス等の報酬改定により減収となる中、重度障害者支援加算の申請をし、適用を受けた。

(2) 利用者の尊厳と人間性を尊重したサービスの提供

ユニット職員による、より細かいアセスメントと日頃の関わりの中から、利用者の希望・願いをより引き出せるような雰囲気作りを行い、それを個別支援計画に反映させた。日中活動では、要望の多いカラオケや映画鑑賞の回数を増やして楽しんでいただいた。また、残存機能を活用したダンスでは野外イベントにも参加して、日頃の成果を披露した。これらにより、モチベーションの向上と QOL の向上に資することができた。

ユニット職員が密な関係を保ち、ご本人の意向を大切にし、その人らしい生活を送っていただけるような支援に努めた。

(3) 利用者のご家族が安心して過ごすことのできる施設づくり

個別支援計画について、毎月評価を実施して、サービスの向上に努めた。

制度の仕組みや内容、施設での対応方法、書類の変更箇所等を、利用者様とご家族へ、その都度、文書掲示、電話、口頭、ご家族面会の面談等で説明を行い、情報の提供を行った。

少人数の家庭的な雰囲気の中で暮らしていただけるよう、綿密な個別支援に努めた。

利用者やご家族が職員に気軽に相談できる雰囲気を作るため、ご家族の面会時や電話連絡時に、利用者への日頃の関わり方や近況の報告を行った。

利用者のリハビリテーション実施計画書の見直し

利用者 7 0 名のうち 6 8 名の実施計画書を修正し及び作成することができた。

事故やヒヤリハットに対しては、直ちにご家族へご報告し、対策についても再度ご報告

するようにして、事故の再発防止に努めた。また、面会時には、利用者の近況をお伝えする等、ご家族とのコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めた。

嗜好調査の結果や給食委員会からの利用者の意見を採り入れるとともに、栄養マネジメントを活かした食事サービスを提供した。

安全安心な食事を美味しく楽しくしていただくとともに、利用者個々に合わせた栄養摂取量、食形態の食事を提供し、栄養状態の悪化や疾病の重症化の防止、健康の維持に努めた。

利用者の口腔衛生を目的とした愛媛歯科口腔保険センターの歯科医師による歯科検診を実施した。また、口腔ケアや歯の治療の必要な方には、2次検診を実施した。

(4) 介護サービスの質の向上

必要に応じて、外部研修、三恵会の研修、施設内の研修に積極的に参加し、専門性の向上に努めた。

ユニット職員の日々の接遇を利用者に評価していただくことで接遇の向上につなぎ、三恵会研究発表会では、接遇研究プロジェクト『笑顔の花を咲かせましょう。』を発表することができた。

各種会議や申送りにおいて、情報交換や情報の共有を図り、各部署間の連携の充実に努めた。

(5) 地域に愛され、信頼される開かれた施設

日中一時支援事業及び短期入所の積極的な受入れを行った。

- ・ 短期入所利用実績 56件、488日間の受入れ
- ・ 日中一時支援利用実績 28件、134日間の受入れ

施設のステージ、ホール、グラウンド等を活用して、地域の皆様との交流活動を展開した。

ボランティアの団体や個人の増加と、活動の継続を目指して、募集と協力依頼のポスターを作成し、地域の方への呼びかけを行った。

社会福祉協議会等が実施する地域行事へも積極的に参加し、地域の方との交流を積極的に行った。

ふじ祭りや盆踊りの時には、実習受入校や各種団体にボランティアの依頼を行い、協力をしていただいた。

3 研修実績

(1) 施設内

接遇、接遇とクレーム対応、院内感染、身体拘束、虐待などのテーマについて、年間計画に基づき12回実施し、延べ508人が参加した。

研究結果を法人の研究発表会で発表した。

- ・ 平成26年3月1日
- ・ テーマ 「笑顔の花を咲かせましょう」

(2) 施設外

全国研究大会、経営セミナー

中四国施設長研修会、事務長研修会、支援職員研修大会、職員研修大会

県内職員研修会、サービス管理責任者研修会

職種別専門研修会

三恵会職員研修

4 行事实績

4月	お花見会・ふじ祭り
5月	愛媛県障害者スポーツ大会
6月	蛭子神社年次大祭
8・1月	防災訓練（地震昼想定、火災夜間想定、地滑り想定等）
8月	三恵盆踊り大会
10月	地方祭
12月	餅つき大会、忘年会、クリスマス会
1月	新春ゲーム大会
2月	節分豆まき
3月	障害者支援施設交流会
4月～1月	個別外出（1月・2月は、風邪等のため中止。）

5 その他

(1) 地域交流活動

地域交流ふじ祭り	地域交流三恵盆踊り大会(愛媛県との共催)
東温市身障協会との交流	川内保育園との交流

(2) ボランティア活動

職員ボランティア活動

- ・地区の春の井出清掃と秋の道づくりに参加した。
- ・国道11号の歩道の生垣の清掃を、月1回（隔月）実施した。

ボランティアの受入れ

- ・創価ボランティア ・川内地区婦人会 ・HATACHIの会 ・K9
- ・とうおん傾聴ボランティア・8BEATダンススクール ・ともしび会
- ・河原医療福祉専門学校 ・松山城南高校 福祉科
- ・愛媛十全附属医療学院 ・今治明德短期大学

(3) 実習生の受入れ

- ・河原医療福祉専門学校 ・松山城南高校 福祉科 ・愛媛大学

デイサービスセンター
えぐも

施設長 渡部 雅人

平成25年度事業報告

1 経営方針

(1) 通所介護事業

近年は、在宅生活が可能であるにも関わらず、家族の都合で施設に入所される方が増加する傾向にあり、通所介護事業の利用者の減少に危機感を持ち、新規利用者の獲得に努めた。年間で14名の新規利用者を獲得したが、利用を中止される方がこれを上回ったため、定員の確保に至らなかった。

また、後期には積雪のため山間部の方の送迎ができなかったり、風邪で体調を崩され、長期間休まれる方も出、大幅な利用者数の減少となり、その結果、当初の収入予算を大幅に下回ることとなった。

(2) 居宅支援事業

東温市ケアマネ連絡会や研修会、法人内での合同勉強会等に参加し、関係者との信頼関係の構築や業務のスキルアップに努め、利用者の増員にまでは至らなかったが、新規利用者の確保に努めた。

2 重点課題と具体的な取組み

(1) 新規利用者の確保

- ・既存利用者を媒介として、親戚、知人等の情報の収集に努めた。
- ・体験利用時には他施設にない温泉入浴や充実した食事メニュー等のPRに努めた。

(2) 余暇活動の充実

- ・計算ドリルや漢字の読み書き等で脳の活性化を図った。
- ・レクリエーション時には手足を使ったゲームを採り入れ、残存機能の低下の防止に努めた。

(3) 職員の資質の向上

- ・常に笑顔と大きな声で持って利用者につけるとともに、お名前を呼ぶ時は、名ではなく氏を呼ぶことを徹底するなど、接客マナーの向上に努めた。
- ・積極的に、各種の勉強会や研修会に参加し、研さんに努めた。

3 研修実績

(1) 施設内

- ・併設施設三恵ホーム職員研修会 11回

(2) 施設外

- ・中予地区老人施設協議会研修会 4回
- ・愛媛県老人施設協議会研修会 6回
- ・中四国地区老人施設協議会研修会 1回
- ・県社協介護支援専門員実務研修会 1回
- ・東温市介護支援専門員勉強会 12回
- ・愛媛県社会福祉大会 1回

4 行事实績(年間)

- ・社会見学 年10回 (4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、3月2回)
- ・敬老演芸会 9月
- ・誕生会 毎月(年12回)

5 実習生の受入実績

- ・東温高校生 介護実習 4名
- ・サマー・ウインターボランティアの受入れ 9名

兒童福祉施設
十全保育園

園長 小野 千代

平成 25 年度 事業報告

1. 経営方針

平成 25 年度は、27 年度の子ども・子育て支援法にむけて、様々な議論がなされましたが、結局、国の見通しや方針が不透明なままの一年でした。現在、各市町村の子ども・子育て会議において、住民からのアンケート調査を踏まえて、保育等の必要量の推計とそれを確保する方策等の検討が進められているところです。それぞれの地域に見合い、地域の子育て家庭の住民が主体となり、子育てに希望が持てる地域・保育園づくりが、増々求められています。

十全保育園においては、民営化のため職員が異動し、新しい体制で 2 年が過ぎました。当初、保護者からは、不安の声もありましたが、職員全員が力を合せ、一人一人の職員が、自分の役割を見出し、行事等で力を発揮する姿が見られるようになりました。子どもも保育の中で達成感を味わい、保護者もそれを感じて「子育ての喜び」とするなど、保育の評価も得ることができました。

今後は、さらなる保育内容の充実・向上をめざし、少子化が進み制度が変わろうとも、保護者に選ばれる保育園を目指していきたいと考えています。

2. 重点課題と具体的な取り組み実績

(1) 「誠実な福祉」の実践

子どもの健康・安全な生活を保障する。

- ・月 1 回の職員会で、子どもの状況、けがの報告を話し合い、周知徹底を図りました。大きなけがはなく、安全保育を進めることができました。

子どもの健やかな発達を目指した保育

- ・各年齢の発達に合った保育については、保育の内容、保育の質を重視していきました。職員会で話し合った問題点や課題が、一人の職員の問題として考えるのではなく、自分の保育や子どもへの関わり方にも通じることを大切にしながら、討議を進めていきました。
- ・障がい児保育については、加配保育士の補助金は、ありませんでしたが、発達につまづきがあると思われる児童の保護者に、現在の発達段階や今後の支援についての理解を深めるため、発達支援課の巡回相談を保育士と共に受けってもらうよう働きかけていきました。その結果、保護者も前向きに受け止め、専門機関に出向いたり、問題の行動に対しても、ただ叱るのではなく、理解しようと考えが変わった保護者もいました。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

職員の資質向上

- ・三恵会の発表では、「伝承あそび」をテーマとして、あそびの意義を再確認すると同時に、マンネリになりがちなあそびを意識して園全体で取り組むことができました。

職員の業務内容について

- ・それぞれの職種において、責任と当事者意識を重視し、業務を進めていきました。何を大切に、何をすべきかということの認識は、深まってきたと思います。しかし、まだまだ積極的に意見を出したり、新しい取り組みを提案することが今後求められます。

また、栄養士・看護師においては、保育士との連携が課題となりました。

(3)「堅実な経営」の実践

- ・消耗品・保育材料等の節約、使用の見直しを図り、削減を進めてきました。職員のコスト意識も芽生え、購入したいものの見直しや他の物で代用できないか等も検討するようになってきています。園全体では、修繕箇所が多くなってきているので、再度の見直しと計画性が求められます。

3. 研修実績

(1) 施設内

- ・職員会（月1回）
- ・先任者会
- ・主任会（随時）

(2) 施設外

- ・保育協議会部会（園長・主任・幼児・乳児・障がい児・給食）
- ・日本保育協議会主催研修
- ・主任保育士研修
- ・給食担当者会議
- ・人権教育研修
- ・東予連絡協議会
- 等

4. 行事实績(年間)

- 4月 入園式・園児健康診断・ぎょう虫検査
- 5月 親子遠足・野菜苗植え・種まき・家庭訪問
- 6月 歯科検診・保育参観(食に関する講演実施)・夕涼み会
プラネタリウム見学
- 7月 七夕会・プール開き
- 8月 プール大会・ライン引き
- 9月 デイサービス交流・敬老の日にちなんでの葉書投函
- 10月 運動会・お祭り集会
のま馬ハイランド遠足(年長児)・交通安全教室
- 11月 園児健康診断・七五三・職場訪問(消防署、西原郵便局)
火遊び防止教室・プーク人形劇、シルエット劇場観劇
- 12月 保育参観・もちつき・歯科検診
クリスマスコンサート参加(十全総合病院)

- 1月 新入児面接・記念撮影・新居浜ネットワーク撮影
- 2月 節分・生活発表会(たのしいあつまり)・年長児お茶会
- 3月 交通安全教室・乳児遠足・お別れ遠足・お別れ会・卒園式
 (毎月実施)身体測定・避難訓練 (随時)なかよしの日《異年齢交流》

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流状況

- ・お誕生会 ・夕涼み会
- ・運動会 ・「たのしいあつまり」(生活発表会) 等

(2) ボランティア状況

《夕涼み会》

- ・十全看護専門学校 計20名

(3) 実習生受け入れ状況

- ・十全看護専門学校 28名
- ・山陽学園短期大学 1名
- ・今治明德短期大学 1名
- ・新居浜西高等学校 31名
- ・新居浜西中学校 6名
- ・新居浜北中学校 2名 計69名

特別養護老人ホーム
ハートランド三恵

施設長 岡田 慶子

平成25年度事業報告

1. 経営方針

平成25年度は、法人設立40周年でもあり、先輩たちの社会的ニーズに対応する創造性と挑戦力・実践力を受け継ぎながら、「おかげさまで40周年！私たちはまあいい心でみんなが笑顔を目指します」をキャチフレーズに、時代に合ったご利用者への個別ケア、自立した生活を支援する体制を構築できるよう、新しいシステム作りや様々な改善に取り組んできました。

「笑顔であいさつを」運動に取り組み、職種を越えての連携がスムーズになり、全ての職員がお互い笑顔であいさつできる職場になり、笑顔のもたらす好循環で、職員、ご利用者、地域が明るくなるよう歩み続けています。

また、介護力向上＝おむつゼロに向けて、個別に水分、歩行・運動、食事、排泄等のデータを整理・把握、分析する科学的介護を実践する中で、ご利用者の変わっていく姿や笑顔と言葉が増えていくのを見る事が出来、職員の意識や取り組みに変化が起きました。現在平均介護度 4.1、日中トイレで排泄されている方は、93.4%、愛媛県介護力向上参加特養48施設中3位です。科学的な視点を持つことで、成果を上げ、業務改善の手法を身につけ、ご利用者中心に多職種連携により1つのチームになる事が出来ました。おむつゼロに取り組む中で、ご利用者・職員の体にやさしく、安心・安全な持ち上げない介護に取り組むプロジェクトができ、福祉用具の活用や勉強に取り組んでいます。

ご利用者の自立支援、生活が豊かになるにはどうすれば良いか、ご利用者の立場になって、職員同士が力を合わせ、継続的に支援していくことにより、特養は最後の施設ではなく、人間らしい尊厳を取り戻すための始まりの施設にできていると思っています。

様々な状況の中、地域福祉の良きパートナーとして地域の連携を大切にし、ご利用者の福祉・介護ニーズに応える高品質サービスを提供することは施設の使命であり、25年度の目標を「心豊かに暮らせる生活の場の提供」「人材育成・職員の資質向上」「稼働率の向上と事故防止活動の質の向上」掲げ、法人理念を基に、目標実現に向けて取り組み、成果を出す事が出来ました。

2. 重点課題、具体的な取り組み事項

(1) 心豊かに暮らせる生活の場の提供（誠実な福祉）

個別ケア、自立支援の充実

接遇の向上。笑顔と思いやりの心で行動する

各種マニュアルの見直しと作成

基本を大切に、共に成長していく環境作り

* 笑顔であいさつ運動に取り組んだ考察を法人研究会で発表し最優秀賞を受賞

* おむつゼロにむけて～科学的介護の実践～を法人研究会で発表し優秀賞受賞

(2) 人材育成・職員の資質向上(確実な知識と技術)

部署間の連携とチーム力強化

分析力、行動力、責任感の持てる職員の意識醸成

各部署、1年毎の研究テーマに取り組む

自らの課題を具体的に把握し、自己啓発への援助

*介護力向上の取り組み事で職員一人一人の責任感と力量が高まった

*介護福祉士資格取得 6名

(3) 稼働率の向上と事故防止活動の質の向上(堅実な経営)

在宅部門の稼働率アップと利用登録者数増への取り組み

リスクの原因追究・改善への手順を通じて、危機管理の強化を図る

満足感のあるサービスの提供と推進

地域との連携を持ち、地域に愛される施設運営

*年度末近くで稼働率が少し上がり、本部繰入金、収支差額金が確保できた

3. 研修実施状況

(1) 施設内研修

全職員対象

・研修報告及び伝達講習(12回) ・テーマ別研修(10回)

・講演形式の研修(2回) ・各種指針に基づいた研修(6回)

部署毎

・実習生の受入れ、業務の見直しと勉強会の実施

・月1回部署毎に会を持ち、改善や展望について意見交換

・2か月に1回ユニット毎に会を持ち、処遇の統一等の意見交換

(2) 施設外研修

・愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会

・四国地区老人福祉施設関係研究大会

・四国ブロックカンントリーミーティング

・四国老人福祉施設協議会セミナー

・愛媛県栄養士会、新居浜市栄養士会主催の研修

・新居浜病院栄養士協議会研修会 ・愛媛県栄養指導者研修会

・介護支援専門員の各種研修 ・県、西条地方局、新居浜市主催の各種研修会

・介護職員技術向上講習会 ・介護技術講習指導者養成講習会

・県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の各種研修会

・ユニットリーダー研修

4. 行事实施状況（年間）

（1）毎月の共通行事

- ・神事・誕生会・趣味活動・音の広場・カラオケ大会・外出（各種花見、外食等）
- ・手づくりおやつ・なかよし喫茶（毎週1回）・お参りツアー・スライドシアター
- ・絵手紙教室・習字で遊ぼう・お琴で歌おう・合同レクリエーション・健康体操
- ・カレンダー作り・握り寿司の日（11月～4月）

（2）月別行事

- | | | | |
|-----|-----------------------|-----|-------------------|
| 4月 | ・花見 | 5月 | ・園庭での弁当給食・外出 |
| 6月 | ・お参りツアー・おやつ作り | 7月 | ・夕涼み会・七夕祭・ワークキャンプ |
| 8月 | ・夏祭り | 9月 | ・敬老会・観月会・個別外出 |
| 10月 | ・太鼓台・個別外出・ミニ運動会 | 11月 | ・紅葉見物・園児と交流 |
| 12月 | ・忘年会・クリスマス会・しめ縄作り・餅つき | 1月 | ・新年会・七草粥・鏡開き・外出 |
| 2月 | ・節分・バレンタインデー・ふれあい訪問 | 3月 | ・ひな祭り・園児と交流・外出 |

5. 地域交流、ボランティア、実習生

（1）地域交流

- ・夏祭り
- ・地区太鼓台訪問（春、秋）
- ・十全保育園誕生会参加
- ・夕涼み会
- ・敬老会
- ・萩生保育園（七夕訪問・夏祭り）
- ・やすらぎの郷文化祭
- ・作品展（伊予銀行、十全総合病院）
- ・公民館活動への協力と交流
- ・外出行事による社会活動

（2）ボランティア活動

職員ボランティア活動

地域清掃（年2回）

ボランティア受入状況

- | | | |
|-------------------------------------|----------------|-----------------|
| ・ハートランドと手をつなぐ会（随時） | ・音の広場（毎週金・土曜日） | |
| ・コーラスグループ | ・三味線民謡グループ | |
| ・傾聴ボランティア「クロバー」 | ・楽器演奏グループ | |
| ・十全保育園 | ・萩生保育園 | ・グレース幼稚園 |
| ・聖マリア幼稚園 | ・中萩小学校 | ・中萩中学校 |
| ・大生院中学校 | ・南高等学校 | ・写真（誕生月者の笑顔を撮影） |
| ・お琴で歌おう（月2回）・習字で遊ぼう（月2回）・絵手紙教室（月2回） | | |

（3）実習生の受入状況

- ・新居浜南高等学校
- ・愛媛医療福祉専門学校
- ・四国中央医療福祉総合学院
- ・ニチイ学館
- ・シルバー人材センター
- ・介護労働安定センター愛媛支部

理事会での説明用（2分）

ハートランド三恵です。〇ページをご覧ください。

平成25年度は、法人設立40周年でもあり、「おかげさまで40周年！私たちはまあいい心でみんなが笑顔を目指します」をキャッチフレーズに、新しいシステム作りや様々な改善に取り組んできました。

「笑顔であいさつを」運動に取り組み、笑顔のもたらす好循環で、職員、ご利用者、地域が明るくなるよう歩み続けています。

また、おむつゼロに向けて、個別に水分、歩行・運動、食事、排泄等のデータを整理・把握、分析する科学的介護を実践する中で、職員の意識や取り組みに変化が起きました。科学的な視点を持つことで、成果を上げ、業務改善の手法を身につけ、ご利用者中心に多職種連携がうまく機能出来ました。おむつゼロに取り組む中で、持ち上げない介護に取り組むプロジェクトができ、福祉用具の活用や勉強に取り組んでいます。

ご利用者の自立支援、生活が豊かになるにはどうすれば良いか。ご利用者の立場になって、職員同士が力を合わせ、継続的に支援していくことにより、特養は最後の施設ではなく、人間らしい尊厳を取り戻すための始まりの施設にできていると思っています。

様々な状況の中、高品質サービスを提供することは施設の使命であり、25年度の目標を「心豊かに暮らせる生活の場の提供」「人材育成・職員の資質向上」「稼働率の向上と事故防止活動の質の向上」とし、法人理念を基に、目標実現に向けて取り組み、成果を出すことが出来ました。

2の重点課題、具体的な取り組み、3の研修実施状況、4の行事实施状況、5の地域交流等は〇〇ページ～〇〇ページをご覧ください。

老人保健施設
リハビリステーション三恵荘

施設長 越野 雅夫
副施設長 藤田 敏彦

平成25年度事業報告

1. 経営方針

平成25年度は、入所部門におきましては地域包括ケアシステムの構築が推進される中、介護老人保健施設の本来の役割である在宅復帰・在宅生活支援の充実のため、在宅復帰率30%以上達成のための取り組みと入所稼働率アップについて重点的に取り組んでまいりましたが、在宅復帰率が約10%で在宅療養支援機能加算の取得には至りませんでした。また、入所稼働率については、前年度に比べて若干上がりましたが、目標値には届きませんでした。この点については、来年度への課題として残りました。

ケアサービス内容の向上につきましては、特に認知症ケアの充実の一環として、「くもん学習療法」をモデル事業として実施し、利用者の生活の質の改善を図るとともに、職員のコミュニケーション能力の向上に努めました。また、リスクマネジメントについては、危険個所の修繕や感染症対策の充実、防災訓練の実施を通して、利用者の安全を守る取り組みを実施しました。

職員の資質向上につきましては、積極的に各種研修会等に参加させて、職員個々のスキルアップを図り、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得に繋がりました。特に今年度キャリア段位制度の評価者を養成することができたことは、これからの介護職員のスキルアップに繋がるものと思われまます。

通所リハビリテーション事業は、稼働率においては昨年と比べてほとんど変わりませんでした。ただ、ご家族やケアマネジャーの要望にきめ細かく対応したり、土曜日の利用者獲得に力を入れた結果、稼働率も上昇傾向となっております。課題としては通所リハビリテーションに求められる機能に対応するための職員の資質向上が必要となっております。

居宅介護支援事業所は、職員1名体制となりましたが、ケアプラン取り扱い実績約95%を達成することができました。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」

認知症ケアの一環として「くもん学習療法」をモデル事業として実施。

利用者の安全を第一としたリスク対策として、危険予知学習・感染症対策の充実・地震を想定した防災訓練の実施。

(2) 「確実な知識と技術」

職員研修計画に基づき、職員個々のレベルにあった研修を実施。

オールジャパンケアコンテストへの参加や三恵会研究発表会での発表。

(3) 「確実な経営」

入所部門稼働率83.4%、通所部門稼働率67.4%。

在宅復帰率30%以上が達成することができず、在宅療養支援機能加算の取得には至らなかった。

3. 研修等実績

(1) 施設内

法人による新人研修、階層別研修、研究発表会

定期的な自主研修（各職種分担） * 内容により外部講師等を検討

(2) 施設外

全国老人保健施設協会主催各種研修会、全国介護老人保健施設大会

介護老人保健施設中四国ブロック大会

愛媛県老人保健施設協議会主催各種研修会、愛媛県老人保健施設大会

介護支援専門員更新研修、介護福祉士実習指導者講習会、介護プロフェッショナル

キャリア段位制度評価者講習会、オールジャパンケアコンテスト、レクリエーション

インストラクター養成講習会、社会福祉施設職員会計実務講座上級コース

* その他適宜選択し研修会等に参加

(3) 取得資格等

介護福祉士、介護支援専門員、第二種衛生管理者、レクリエーションインストラク

ター、介護福祉士実習指導者、介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者

4. 行事实績（年間）

【入所】

【通所】

4月	花見（ミニドライブ）	花見
5月	外出（ミニドライブ） 外食	おやつ作り、手工芸
6月	菖蒲見物、ショッピング	ベタング大会、菖蒲見物
7月	七夕、ピアホール、ワークキャンプ	七夕、熱中症について、映画の日
8月	夏まつり（ハートランド三恵と合同）	おやつ作り、リハビリ体操
9月	敬老会、観月会	敬老週間、おやつ作り
10月	太鼓祭り、秋季大運動会	運動会、お出かけ（回転寿司）
11月	紅葉見物、ショッピング	おやつ作り、紙芝居、音楽会
12月	忘年会、クリスマス、餅つき	ゆず湯、手工芸、クリスマス、忘年会、餅つき
1月	書初め	新年会、初詣、風邪やノロウイルスについて
2月	節分（豆まき）	節分、おやつ作り・冬の七夕見学
3月	ひな祭り、ショッピング、外食（寿司）	ひな祭り、おやつ作り、お出かけ（回転寿司）

* 神事、茶話会は毎月。誕生会は偶数月。 * 機関紙は年4回発行

5. 地域交流、ボランティア、実習生

(1) 地域交流

ふれあい夏まつり、太鼓台訪問、大生院・中萩校区文化祭

(2) ボランティア受け入れ

音楽療法（週1回）、地域有志の歌レク（週1回）、大正琴、フラダンス、民謡等

(3) 実習生の受入

新居浜南高等学校

老人保健施設
希望の館

施設長 大西 健司
副施設長 重藤 眞一

平成25年度事業報告

1. 経営方針

2ヶ年計画の1年目を終えた現時点での目標達成状況と経営全般について報告する。

テーマ1:「安定した経営」の維持（入所稼働率2%アップへ）

結果：目標には至らなかったが、開設以来最高の稼働率（95.5%）を達成できた。

評価：まずは今年もよく頑張ってくれた職員に心から感謝したい。ただ、戦略的には居宅ケアマネを増員(3 4人)し、3事業全体の稼働率アップを図るも、産休による離脱や新人の成長不足等により期待した効果が得られず課題を残した。

対策：現在、ハローワークへの求人など外部からの登用と施設内部からのコンバートの両面で行っており、出来る限り早く解決したいと考えている。

テーマ2:「在宅復帰支援施設」を目指す（最終的には『強化型』へ）

結果：直近6カ月の平均値で見た「在宅復帰率」は年平均で16.1%であった。

（因みに、最高は12月末現在の20.7%、最低は6月末現在の11.9%であった。）

評価：当面の目標である30%には届かなかったが、一方で入所稼働率やベッド回転率を睨みながらの取り組みであったこと、また「在宅復帰率」自体がほぼゼロからのスタートであったことを考えれば、大きな前進であったと考えている。

対策：今後も「在宅復帰委員会」を中心に、施設内にて目標達成に向けて意識統一と情報の共有を図りながら、引き続き「在宅復帰率」アップに努めたい。

その他、通所リハ事業は、入所と同様に過去最高の稼働率（67.2%）であったが、まだまだ伸び代があり今後も引き続き努力したい。また、居宅介護支援事業については、新規利用者を安心してご紹介頂ける「信頼に足る支援」を心掛けたい。

今後も地域から「必要とされる施設」となるべく努力して参りたい。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1)「誠実な福祉」の実践（利用者のQOLの向上）

「職員の説明力アップ」・・・まだまだ不十分（引き続き努力必要）

「事故発生時の迅速且つ誠実な対応」・・・結果、トラブルはゼロ

「接遇力のアップ」・・・法人主催の「接遇研修」の効果に期待

(2)「確実な知識と技術」の習得（職員の資質向上）

「チーム力のアップ」・・・新たに「看取り」体制スタート

「アセッサーの養成」スタート・・・介護職員のモチベーションアップに期待

「感染症から利用者を守る」・・・ノロ、インフル共に利用者の感染ゼロ

(3)「堅実な経営」の維持（収益アップと経費削減）

「危機管理の強化」・・・消防署、消防団と合同の非常食体験訓練実施

「各事業の稼働率アップ」・・・入所、通所共に過去最高の稼働率達成

「経費節減」・・・可能な限り努めた。

3. 研修計画

(1) 施設内

新人研修 感染予防勉強会 認知症に関する勉強会 褥創予防に関する勉強会
事故対策に関する勉強会 虐待・身体拘束のための勉強会 救急法 接遇研修
メンタルヘルス研修 関節可動域に関する研修 口腔ケア・フットケア研修等

(2) 施設外

全老健職員基礎・中堅研修会 四国老健協研究大会 全老健職員実地研修
県及び四国理学・作業療法士学会 介護支援専門員現任研修
全老健中四国大会 その他虐待・身体拘束、褥創、感染等に関する研修等

4. 行事計画(年間)

- 4月 お花見
- 5月 アニマルセラピー
- 6月 風船バレー大会
- 7月 七夕会
- 8月 ビアホール・縁日喫茶
- 9月 敬老会
- 10月 運動会、地方祭
- 11月 文化祭(東温市)
- 12月 クリスマス・忘年会、お餅つき
- 1月 新年会(お砂踏み)
- 2月 節分
- 3月 コール歩歩演奏会・雛祭り喫茶

5. ボランティア・実習生

(1) ボランティア受入状況

趣味クラブ(月2回)、喫茶(月2回)、歌おう会(月1回)、オカリナ演奏(月1回)、ショッピング(月2回)、ともしび会(月1回)、サマーボランティア(年1回)、ウインターボランティア(年1回)、傾聴ボランティア(月1回)

(2) 実習生の受入状況

学校等：十全医療学院 河原医療福祉専門学校 愛媛大学医学部
広島医療保健専門学校 NHK学園
ホームヘルパー：ケアジャパン 東温高校
看護：河原医療大学校

通所介護事業所
おいでんや

館長 池内 貞二

平成25年度 事業報告

1. 経営方針

利用定員を35名から25名に縮小という非常に厳しい状況の中、職員一同気持ちも新たに、1日の平均利用者数の目標を、18名と設定し取り組んでまいりました。途中、夏場を中心に稼働率の落ち込みがありましたが、徐々に回復の兆しが見え始めました。

職員一人一人が危機感を持って、お客様（利用者・体験利用者）をお迎える姿勢が改善されつつあることの表れと考えます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 稼働率の向上と安全・安心の確保

職員の資質の向上・全館挙げての取り組み・地域との交流を主眼に稼働率の向上を図って参りましたが年度末になってその改善の兆しが見られます。

少し利用が遠ざかっている方に、様子伺いの電話やお見舞い等、実行しましたところ、お礼の言葉をいただく事もあり、職員たちにも励みになり、好循環な流れを生み出し、良好な関係を築くことができたと感じています。

(2) 独創性を加味したサービスの展開

移動手段を持ちにくくなった利用者の生活支援の一環として継続実行してきた買い物行事は、利用者にとっても楽しみなようでした。また、年2回の個別外出も好評で、待ち遠しく感じてもらっているようでした。

総合福祉館ならではの世代間交流では、新たにわくわくクラブとの生け花が毎週火曜日の恒例行事となるなど、これまでよりも交流の機会が増えました。

また、飲み物の充実や、ゲームの景品贈呈等は、好評で喜んでいただけました。

(3) 地域交流・ボランティア

今年度は、地域の高齢者福祉センターとの交流を深めることができ、夏まつりに誘っていただいたり、健康講座を開催させていただいたりしました。その事により、地域の方においでんやを知っていただく機会がありました。

他にも、今までになかった種類のボランティアさんにも関わっていただけることになり、利用者の新しい顔（特技）を知ることであった一年でした。

(4) 記録の充実

多職種の職員が記録に関わりました。また、日々の様子や状態の違いを観察し、「いつもと違う」に気付くことに注意して記録に残してきました。

3. 研修計画

接遇態度に関しては、三恵会主催の接遇研修や施設独自の研修により、より深く学ぶことができ、言葉使いや何気ない態度を注意し合えるチームになりました。一定のスキルアップが出来たものと思っております。

4. 行事計画

年間行事計画に沿った行事の提供ができました。

4月	5月	6月	7月
・お花見 ・個別外出	・芍薬見物 ・個別外出	・菖蒲見物	・夏まつり(合) ・七夕まつり ・社会見学
8月	9月	10月	11月
・社会見学	・個別外出 ・防火訓練	・いきいきフェスティバル ・太鼓台見物 ・個別外出	・校区文化祭 ・紅葉見物
12月	1月	2月	3月
・もちつき(合) ・クリスマス会 ・忘年会	・初詣 ・書初め ・初釜	・カラオケ大会(合) ・節分 ・梅見物	・ひな祭り ・防火訓練

毎月・・・買い物、外食、おやつ作り、音楽療法(ピアノ演奏)

平成 25 年度 事業報告書

居宅介護支援事業所

平成 25 年度は、2 年後の介護保険制度法改正にむけて見直しポイントが示されつつあり、それを受けて今後の方向性を考える土台作りをはじめた年となりました。また、居宅介護支援事業所として、ご利用者様が「最期まで住み慣れた我が家で暮らしたい」とのご希望に寄り添うケースに 3 つ関わったことに大きな意味があった一年でした。世代交代していく中で、担当させていただいた方との別れがこの 7 年間の中で一番多かった一年でした。

事業計画に挙げた目標/具体策に対しての成果と今後への取り組み

1 . 介護支援専門員としてのスキルアップ

介護支援専門員の資格更新のための研修に参加でき、業務の遂行を来年度も実施することができる予定です。スキルアップできる研修については、12 月に参加した緩和ケアの内容が精神的にはハードであったが、今後の介護支援専門員としての在り方をしっかりと見つめ直しができるものでした。相談を受けること・人の話を聴くことに真摯に向き合いながら自分自身の心のケアをしっかりとこない業務にむかいます。

2 . 主任介護支援専門員として市の介護事業への連携・貢献

主任介護支援専門員の役割が今一つ曖昧な所があり、市単位の取り組みが積極的に行なわれていないのが現状です。が、市全体の介護支援専門員部会のお世話役を担う事業所として仲間入りできたことについては、今後の活動に弾みがついたと考えています。今後は、2 年後の法改正に向けた新居浜市の介護予防の取り組みへの施策にも目を向けていきます。

3 . グループ内の交流

グループ内の部会参加については、予定通り年 2 回参加でき、意見交換などを実施し、それぞれの事業所の取り組みや課題について考えることができた。今後は居宅介護支援事業所としての底上げをどのように行ない、介護支援専門員としてのスキルアップをどのようにしていくかを考えた部会内容を考えていくことが必要です。

多機能型事業所
わくわくクラブ

館長 池内 貞二

平成25年度 事業報告

1. 経営方針

社会福祉法人三恵会創立40周年の節目の年に、放課後等デイサービス事業を開始しました。この事業は、小学校から高等部に通う障害をもつ児童・生徒を支援する事業です。当初の予想を大幅に上回る利用者があり、順調な運営が出来ました。また、生活介護事業の役割が高まる中、10月からは、就労移行支援事業を閉鎖し、生活介護事業定員を15人から21人と増員しました。このことにより、「安心して利用できる社会参加の場」として児童から大人まで一貫した支援体制が整いました。これからも引き続き、わくわくクラブを選んでいただけるよう職員の資質の向上・支援内容の充実に努めてまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 利用者の積極的な受け入れ

放課後等デイサービスの登録者も約30名となりましたが、市内に同様の事業所が新たに2施設開設され経営環境は非常に厳しさを増していく状況です。特徴あるオンリーワンの事業所を目指します。

生活介護事業では新居浜特別支援学校の卒業生が実習を経て2名、3月からの利用開始に結び付けております。

今後、わくわくクラブの良さを関係者にアピールし、利用促進に繋げていきます。

(2) 支援内容の充実

個別支援計画を中核として、支援の充実を図りました。保護者の死亡や入院など利用者を取り巻く環境が激変し、他福祉関係機関との連携が強く求められる事例が増えており、「利用者にとって何が必要か」を常に念頭に置き、適切な支援をしてまいりました。

わくわくクラブの売りは、作業指導のみでなく、スポーツや音楽などの文化活動支援・より豊かな生活支援をしていることです。

これからも、障がいを持つ方たちのより豊かな社会参加に繋がる支援をしてまいります。

(3) ネットワークづくり

各関係機関（就労、保健、医療、福祉等）とのネットワークづくりを行いました。特に相談支援センター（あゆみ・わかば・十全第二病院・まごころの会、こだま、四国中央市相談支援センター等）の相談員には、関係利用者のケア会議等に参加をしていただきました。

計画相談制度が法制化され、新居浜市委託相談支援センターの計画相談員と連携して、利用者様のニーズに応えることのできるネットワークづくりをしてまいりました。

3 . 研修計画

(1) 施設内研修

- ・職員全体会・スタッフ会・フロア会(月1回)
職員の資質向上に向けてコミュニティハウス三恵での職員研修実施
- ・精神面での支援について、個人の発達段階、障がい、疾患を理解した上でニーズに沿った支援ができるよう研修を行いました。

(2)施設外研修

- ・近隣施設の見学や、他福祉施設や特別支援学校、各種セミナーに参加し、より実践的な研修に努めました。

4 . 行事計画

4月	5月	6月	7月
<ul style="list-style-type: none"> ・お花見 ・社会見学(砥部動物園) ・放課後等デイサービス開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県障がい者スポーツ大会 ・多喜浜体育館 ・外出(黒島公園) ・お菓子作り(パフェ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃ウォーキング ・県科学博物館見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕祭り ・夏祭り(合同行事) ・おやつ作り
8月	9月	10月	11月
<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作り(かき氷) ・マリンパーク外出 ・陶芸(絵付け体験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出(今治市タオル美術館) ・消防訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・地方祭(河川敷) ・コンサート参加 ・生き生きフェスティバル 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区文化祭 ・紅葉狩り ・やすらぎ文化祭参加
12月	1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・十全総合病院クリスマスコンサート参加 ・もちつき ・新居浜市出前講座(歯科衛生の講座) 	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣 ・プラネタリウム ・絵馬作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・節分(豆まき) ・カラオケ大会(全館合同行事) ・冬の七夕参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り ・消防訓練 ・一年のお疲れ会

毎月、清掃ウォーキング・調理実習・体育館での運動・図書館利用等も行った。

放課後児童クラブ
ともだちパーク

館長 池内 貞二

平成25年度 事業報告書

1. 経営方針

民間の放課後児童クラブとして4名の卒業生を送り出しました。その保護者から安心して仕事が出来ました、友達もたくさんできましたと感謝の言葉をいただきました。

子どもたちが安全に生活出来る事を第一に考え、高学年の関わり方、気になる子どもたちについても、職員同士話し合いながら意識統一をはかり対応を行いました。

気になる子どもたちも状態が多種多様、複雑な環境となり、保護者との対話をしようと思うのですが、なかなか難しい状況でもあった一年間でした。学校での状態、保護者の考えなど、これからも把握しながら、ともだちパークで安全に友だちと一緒に遊んだり生活できる工夫を考えていきたいと思えます。

依然、経営的な厳しさは続いています。平成25年度の新居浜市からの運営補助金が前年度より増額していただけるようになりました。1ヵ月5日以上利用者36人以上の確保を目標に今後も進めていきます。

今後も、子ども達の笑顔に励まされながら、安全に生活出来る場所として、『安心して子どもを育てながら、働きたい』働く女性支援の原点の元、子どもたちの成長を、保護者の方と一緒に喜びあって行きたいと思っています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

早朝・延長時間の受け入れ・学校が台風などで臨時休校になった場合の受け入れ・長期休暇時の行事の充実・昼食の提供・高学年の受け入れ・他校との交流・高齢者との交流など、保護者のニーズに添った運営をしてまいりました。

(1)利用児童の定員確保・料金の見直し

- ・1ヵ月5日以上利用者36人以上の確保
- ・川東地区の小学校の新入生に向けて小学校健康診断の日に案内書を配布
- ・三恵会、十全グループの職員割引（登録料）を実施
- ・延長料金の見直し
- ・重要事項説明書を説明し、利用者保護者の同意書を頂く

(2)放課後児童の健康管理、安全確保、情緒の安定

- ・来館時の手洗いやうがい、検温を行い健康管理の徹底
- ・流行性の疾病対策、室内などの消毒
- ・学校へ各学年の下校時間に合わせたのお迎えと共に交通安全
- ・一人ひとりへの言葉かけ配慮とともに保護者への連絡

(3)遊びや宿題等の学習活動に関する援助

- ・玩具の安全確認や正しい遊び方など、一人ひとりに寄り添いながら集団遊びへの誘導
- ・来館後に宿題が取り組める環境を整え声かけを行いサポート

(4)基本的な生活習慣の習得に関する援助

- ・自分の持ち物の片付けや遊んだ物の片付けの声かけ
- ・食事やおやつなどのマナーや来館時のあいさつなどの指導
- ・良い事・してはいけない事の区別がつくよう声かけ

(5)発達支援児への対応

- ・家庭や学校との連絡を取りながら、学童での生活に慣れる工夫を行う

(6)職員の心構え

- ・フロア会を随時行い共通意識を持ち取り組む
- ・研修会に積極的に参加し、指導員としてのスキルアップを目指す
- ・無駄のないよう意識を持つ

(7)交流

- ・にこちゃんパーク・おいでんやとの交流
- ・キッズヘルパーとして昼食時の配膳手伝い
- ・館内合同行事の参加

3．研修計画

- ・ 第 8 回 愛媛学童保育講座
- ・ 第 3 8 回 全国学童保育指導員学校（四国大会）

4．行事報告

- 1 学期 東浜公園・お話会（回転木馬）・ふれあい公園でお花見
夏休み 合同行事～夏祭り・プール遊び・多喜浜体育館で運動遊び
東浜公園・陶芸の絵付け・押し花制作・お話会（回転木馬）
工作（紙皿ブーメラン・けん玉・メッセージカード・風力自動車）
お楽しみ会（すいかわり・スーパーボールすくい・かき氷など）
ホットケーキ作り・高専出前講座『身近な電池・エネルギー』
出前講座『たまごと楕円の積木あそび』『交通安全教室』『そろばん』
- 2 学期 敬老の日プレゼント作り・生き生きフェスティバル作品作り
太鼓祭りで太鼓台見学と楠崎太鼓台に千羽鶴・クリスマスの飾り付け
避難訓練・にこちゃんパーク合同クリスマス会・合同行事～もちつき大会
牛乳パック工作・やすらぎの郷文化祭と神郷地区文化祭に作品展示
- 3 学期 初詣・合同行事～館長杯カラオケ大会・東浜公園・黒島海浜公園
こま作り・牛乳パック工作・紙飛行機・なわとび・6年生お別れ会
おいでんやと交流・配膳のお手伝い・にこちゃんパークと交流
- < 外出 > 東浜公園・黒島海浜公園・多喜浜体育館
- < 出前講座 > エネルギー教室（高専）・「回転木馬」による本の読み聞かせ
たまごと楕円の積木あそび・交通安全教室・そろばん
- < ボランティア > 木のおもちゃとお話会（松山市）・押し花
毎月 「おいでんや」「にこちゃんパーク」との交流を実施
随時 キッズヘルパーとして昼食時の配膳のお手伝い

地域子育て支援事業(ひろば型)
にこちゃんパーク

館長 池内 貞二

平成25年度事業報告書

1. 経営方針

にこちゃんパークは予約無く気軽に利用でき、ゆったりとした雰囲気
が喜ばれ、子育て中のホッとする居場所として、利用していただく方
がますます増えてきています。また、子育ての悩み・苦勞・引っ越しし
てきての地域情報など、お母さん同士、同じ悩みを持ち共感しながら、
友だちの輪が広がって行く姿も良く見られます。「子育てに不安で助けを
求め、にこちゃんパークに行き、色々と相談にのってもらい、とても気
持ちは楽になりました。感謝でいっぱいです。」との手紙を頂きました。
このような、声を聴くのが最高の喜びです。これからも、利用者の要望
を踏まえ、気軽に遊びに来ていただける雰囲気作りを大切に取り組んで
いきたいと思ひます。

また、新規に子育て支援事業を始めようと計画されている事業所が見学
に来られることも有り、支援事業の広がりも実感しています。

これからも子育て親子がたくさん遊びに来て下さるように、内容の充
実をはかり、気軽に立ち寄れる場所として、子育てのお手伝い出来る
よう、取り組んで行きたいと思ひます。

2. 事業内容

平成25年度も取材を受け、にこちゃんパークを紹介していただき知
っていただきました。市役所のホームページに、にこちゃんだよりの掲
載、公民館や病院にもにこちゃんだよりをおかさせていただき、利用者
様の口コミでも、新しいご利用者様も増えてきました。

・えひめの子育て応援サイト『のびのび.Com』に掲載

(1) 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進

- ・週4日間、月・火・木・金曜日を基本として開所
- ・年齢に応じたおもちゃを準備し、安全に過ごせるように

(2) 子育て等に関する相談、援助の実施

- ・市政だよりに開所の曜日・時間を記載していただき、電話での相談を
受ける。
- ・日ごろの対話を大切に行い、その都度援助が出来るよう心がけて
相談を受ける。
- ・相談状況の記録を残す。

(3) 地域の子育て関連情報の提供

- ・児童センター、子育て支援センターの予定表やお便りを掲示
- ・毎月の行事予定や最近の活動報告を写真で記載したお便りを発行
- ・子育て支援に関する新聞記事や講演会などの紹介

(4) 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・つくってあそぼうで毎月季節が感じられるおもちゃ作りを紹介
- ・回転木馬（お話会）や大五木材（木の玉プール）のボランティアに定期的に来て頂く
- ・館内合同の行事やボランティアの行事に参加して頂き、館内を知って頂くと同時に子育てにゆとりが持てるような環境を作る

3. 行事

めあて：季節を感じながら親子で楽しく過ごす

毎月：お話会（回転木馬さん）・誕生会

つくって遊ぼう（工作）小学生との交流

随時：高齢者・障がい者との交流

昼食タイム（12:00 から 13:00）

	つくって遊ぼう	誕生会・その他
4月	かぶと	大型絵本・エプロンシアター・親子手形
5月	びっくり箱	絵本・手遊び歌
6月	紙皿時計	4周年記念品（先着20名配布） カレーパンマン手作りキーホルダー エプロンシアター・絵本
7月	うちわ	木の玉プール（大五木材） 館内合同（夏まつり・ホスピタルライブ） 絵本・手遊び歌
8月	ペットボトルの ころころ水槽	小学生による誕生会（手遊び歌・風船遊び等） 楕円積木遊び・演歌歌手来館ライブ
9月	紙パックのフリスビー	絵本・手遊び歌・避難訓練
10月	太鼓台作り	ふれあい遊び
11月	ペットボトルマラカス	絵本・手遊び歌・校区文化祭に写真展示
12月	クリスマスツリー	木の玉プール（大五木材）・絵本・手遊び歌 ともだちパークとクリスマス会
1月	節分のお面	年賀状 小学生による誕生会（手遊び歌・ふれあい等）
2月	おひなさま	親子昼食会・絵本・手遊び歌
3月	紙コップ楽器 （ミミンバ）	木の玉プール（大五木材）・避難訓練 パネルシアター・絵本

ユニット型地域密着型老人福祉施設
うみかぜ

施設長 小笠原 博子

平成25年度事業報告

1. 経営方針

平成25年度は「おかげさまで40周年～あたたかい絆で広げよう地域の輪～」をキャッチフレーズとし、感謝の気持ちを込めて積極的に地域の皆様との交流を深めてまいりました。特に6月に開催した第一回「恵海まつり」は、地域連携の強化を意識し、施設を身近に感じていただけるよう取り組みました。その後近隣施設との交流や災害時の協力体制等の確立に繋がり、地域福祉の向上に一步前進できたのではないかと感じております。

ユニットケアの質の向上が求められる中、5月より全国・愛媛県老施協主催の「自立支援」を実現するための「介護力向上講習会」が始まり「科学的で専門性の高い介護、利用者様の自立性とQOLの向上を支援する、そして高齢社会の専門職としての社会的認識の確立」という理想のもと、当施設も参加し水分、食事、排泄、運動を中心に生理的機能高めるケアに取り組んでまいりました。徐々に成果が上がり、笑顔で元気になる利用者様が増え、職員の意識改革・モチベーションアップにも繋がりました。理念の浸透、意思統一、チームワークの重要性と、身体面機能向上と共に新たな事故防止対策の必要性等学びの多い取組みとなりました。今後はユニットケアに効果的な24時間シートとの融合を図ってまいります。

短期入所生活介護事業では、稼働率80%目標に向けて委員会を立ち上げ、利用者様の個別のニーズの把握や居宅ケアマネとの報連相の強化、楽しみのあるユニット活動の提供など、新規及びリピーター獲得に向けて取り組んでまいりました。昨年実績63%から今年度75.4%まで稼働率が上昇し、目標まであと一步の結果となりました。今後も高齢者が地域で安心して過ごすことができ、地域福祉の拠点となれるよう努力してまいります。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

感染症予防の強化として10月～12月の職員全体会にて勉強会を実施、動画を活用し予防対策の意識を高めることで、発症を防止することができた。

個別のニーズと一人ひとりの意思を尊重し、季節を感じるユニット活動（ベランダ菜園、外出、外食、手作り料理等）を実施し楽しんでいただきました。

「目を合わせて相手の人と会話をする」「職員同士笑顔であいさつをする」を法人理念と共に朝会にて復唱し、信頼関係の構築に努めた。

(2) 「誠実な知識と技術」の修得

高品質のサービス提供するために、直接処遇者（介護、看護、相談員）の介護技術

講座を開始。他職員は自由参加とした。

「学習療法」「看取り介護」「ディズニーでの接遇」「リスクマネジメント」の研修参加者による伝達研修を実施し学びを深めた。

- ・オールジャパンケアコンテストに1名初参加。
- ・介護部門4ユニットが一年間の研究テーマに取組み、はまゆうユニットが25年度法人研究発表優秀賞を獲得する。

(3) 「堅実な経営」への取り組み

キャンセル待ちや空床利用の活用と、ユニット活動の工夫によりショート稼働率アップの実現。

毎月主任会にて光熱水費、稼働率を報告・分析することで、職員の経営意識を高め実績アップに繋げることができた。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・緊急時の対応心肺蘇生・摂食嚥下障害の理解と支援（外部講師）(2回)
- ・腰痛予防（三恵会人材バンク）(1回) ・伝達研修（接遇、学習療法等）(2回)
- ・各種指針に基づいた研修（10回） ・基本介護技術（3回）

(2) 施設外研修

- ・四国・愛媛県・東予地区老人福祉協議会主催の各種研修会
- ・愛媛県地域密着型サービス協会主催の各種研修会 ・看護協会主催研修会
- ・四国老人福祉施設関係者研究大会 ・愛媛県喀痰吸引等研修会
- ・四国ブロックカントリーミーティング ・社会福祉法人会計セミナー
- ・認知症介護実践者研修、リーダー研修 ・愛媛県喀痰吸引等研修会 ・
- ・介護福祉士実習指導者研修会 ・愛媛県社会福祉協議会主催の各種研修会

4. 行事实績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会（個別） ・ユニット活動（手作りおやつ・作品作り・個別外出）
- ・選択食 ・モーニングサービス形式の朝食 ・3B体操
- ・マンドリンとオカリナ演奏

(2) 月別行事

- | | | | | | |
|-----|-----------------------------|-----|------------------|----|-----------|
| 4月 | 花見 | 5月 | カラオケ | 6月 | 貴嶺宮大祭 |
| 7月 | ピンクベリー歌の訪問 | 8月 | ソーメン流し | 9月 | 敬老会・高齢者顕彰 |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問 | 11月 | 人形劇訪問・にぎり寿司バイキング | | |
| 12月 | 菓子組合訪問・もちつき・若く明るく歌う会・クリスマス会 | | | | |
| 1月 | 七草粥 | 2月 | 節分 | 3月 | ひなまつり |

5 . 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・ 運営推進会議 (1 回/2 ヶ月) ・ 恵海まつり ・ 自治会の運動会、文化祭
- ・ ニチイケアセンターまつり ・ 地域太鼓台訪問

(2) ボランティア活動

職員のボランティア活動 地域清掃 (年 1 2 回)

ボランティア受け入れ状況

- ・ オカリナとマンドリン (年 6 回) ・ ピンクベリーシニア ズ ・ 百福クラブ
- ・ 若く明るく歌う会 ・ 人形劇団ふきのとう ・ 大西社中 ・ JURA バンド

グループホーム
かがやき

施設長 小笠原 博子

平成25年度事業報告

1. 経営方針

平成25年度は「笑顔で、共に、生き生きと」の理念のもと、入居者の方と「一緒に」生活するという事をケアの基盤とし取り組んでまいりました。これまでの日常生活を具体的に取り入れ、一人ひとり役割を持っていただくことで、その人らしさを引き出し活気のある生活を送ることができるよう支援してまいりました。

今年度の外部評価では以下の2点のアドバイスをいただきました。地域との交流をさらに深めること。入居者の重度化や終末期の看取りの体制づくりの強化。これをもとにホーム全体で目標達成計画を作成し、ステップアップに向けて取り組みました。については、6月に開催した「恵海祭り」をきっかけに、近所の親子連れが気軽に遊びに来るようになり、又地域の文化祭への参加や、近隣の施設との交流などの活動が可能となった。

については、再度ご家族、主治医と話し合い理解を深めた。又看取りに関する勉強会を実施し、職員の不安要因の解消に向けて学びを深めた。外部評価により現状の問題点・課題が見え、一つひとつ改善に向けて取り組みサービス向上に繋げていくように努めました。

又、事業所内外の研修や講演会に積極的に参加し、職員の資質向上に努めると共に、ユニット会では個別のアセスメントを行い情報の共有化を図りました。事故防止については、ヒヤリハットを多く報告し、迅速にカンファレンスを実施しケアの改善と環境整備を行い防止に努めました。これからも「うみかぜ」と協力体制を図りながら感謝の気持ちをこめて、入居者様や地域の方に安心・安全で心をこめたサービスを提供していきます。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 「誠実な福祉」の実践

感染症予防の強化として10月～12月の職員全体会にて勉強会を実施、動画を活用し予防対策の意識を高めることで、発症を防止することができた。

個別のニーズと一人ひとりの意思を尊重し、季節を感じるユニット活動（花壇の水やり、外出、外食、手作り料理等）を実施し楽しんでいただきました。

「目を合わせて相手の人と会話をする」「職員同士笑顔であいさつをする」を法人理念と共に朝会にて復唱し、信頼関係の構築に努めた。

(2) 「確実な知識と技術」の修得

認知症実務者研修参加者より伝達研修を実施。

センター方式を活用しアセスメントの見直しを実施し、ケアプラン作成につなげた。介護福祉士2名合格。オールジャパンケアコンテスト1名初参加

(3) 「堅実な経営」への取り組み

「サービス提供体制強化加算」変更と「認知症専門ケア加算」への体制づくり。
入居希望の待機者に対して情報収集が遅れスムーズな入居につなぐことができなかつたため、今後の課題となった。
身体面・精神面の観察をし利用者様の健康状態の把握と、早期対応に心がけたため入院による空床を防ぐことができた。

3. 研修実績

(1) 施設内研修

- ・緊急時の対応心肺蘇生・摂食嚥下障害の理解と支援(外部講師)(2回)
- ・腰痛予防(三恵会人材バンク)(1回) ・伝達研修(接遇、学習療法等)(2回)
- ・各種指針に基づいた研修(10回) ・基本介護技術(3回)

(2) 施設外研修

- ・愛媛県・東予地区老人福祉協議会主催の各種研修会
- ・愛媛県地域密着型サービス協会主催の各種研修会
- ・認知症介護実践者研修、リーダー研修 ・学習療法士認定研修会
- ・愛媛県社会福祉協議会主催の各種研修会 ・介護支援専門員更新・特別研修

4. 行事实績

(1) 毎月の共通行事

- ・誕生会(個別) ・ユニット活動(手作りおやつ・個別外出) ・選択食
- ・モーニングサービス ・3B体操 ・マンドリンとオカリナ演奏

(2) 月別行事

- | | | | | | |
|-----|-----------------------------|-----|------------------|----|----------------|
| 4月 | 花見 | 5月 | 回転寿司 | 6月 | 貴嶺宮大祭 |
| 7月 | ピンクベリー歌の訪問 | 8月 | ソーメン流し | 9月 | 敬老会・高齢者顕彰・いもたき |
| 10月 | 運動会・太鼓台訪問 | 11月 | 人形劇訪問・にぎり寿司バイキング | | |
| 12月 | 菓子組合訪問・もちつき・若く明るく歌う会・クリスマス会 | | | | |
| 1月 | 七草粥・初詣・イチゴ狩り | 2月 | 節分 | 3月 | ひなまつり・梅見物 |

5. 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流の実施

- ・運営推進会議(1回/2ヶ月) ・恵海まつり ・自治会の運動会、文化祭
- ・ニチイケアセンターまつり ・地域太鼓台訪問

(2) ボランティア受け入れ状況

- ・オカリナとマンドリン(年6回) ・ピンクベリーシニアズ ・百福クラブ
- ・若く明るく歌う会 ・人形劇団ふきのとう ・大西社中 ・JURAバンド

児童福祉施設
中萩保育園

園長 伊藤 民江

平成 25 年度 事業 報告

1. 経営方針

25 年度は、保護者の皆さんから頂いた意見や苦情、そして励ましのお言葉をしっかり受け止め、基盤づくりや方向性を元に 「保育環境を整え安全保育の実施」「危機管理意識を高める」「柔軟な特別保育事業の推進」「乳児保育の拡大と充実」の 4 項目を柱に取り組みました。

安全保育の実施では、大規模改修工事を行い環境整備に力を注ぎました。又、第三者評価機関による第三者評価を受けました。7 か月間を要する長期取り組みでしたが「民営化の成果はあった」と、よい評価を頂きました。受けるに当たっては様々な不安がありましたが、職員みんなで話し合い学び合う機会となりました。今回の評価を励みに、子育て支援の拠点として新たな認識をもって、地域の方々に親しまれる保育園を目指したいと思います。

感染症防止については、年間を通して対策に努め、流行期には情報提供する等、保護者との連携を密に取り、結果、重症化や大流行には至りませんでした。

特別事業夕方 1 時間延長保育では、利用児 6 人以上の確保、乳児保育では、0 歳児 10 人以上を目標にしていたが 12 人確保する事ができました。又、高齢者雇用申請による加算等、収入増となりました。保育内容の充実は勿論ですが、職員の危機管理意識については、引き続き、重要課題として取り組み「チーム力」「対応力」「説明力」を踏まえた防止策の向上を目指したいと考えています。

25 年度も緊張感のある年でしたが、職員みんなで乗り越えた事で、保護者の態度表情も少しずつですが、良い方向に変わってきていると感じました。

新制度の動向については、大変、気になるところですが、保護者との関係を大切にスムーズな移行に向け職員みんなで頑張っています。

2. 重点課題と具体的な取り組み

(1) 保育環境に配慮し安心安全な生活の確保

大規模改修工事の実施では、保育室と階段、廊下の壁紙貼り替え・耐震性窓ガラスの入れ替え・飛散防止フィルムを貼る・ドア開閉の調整・乳児室の整備等改修し保護者からは「明るく清潔になった」と喜んで頂いた。しかし、建物や機器関係の老朽化が進んでいるので、計画的に改修を進め安心安全な保育環境を整備していきたい。

安全対策では、ヒヤリハットの原因について園内研修を行い防止に努めたが、大きな怪我や事故につながらないように、引き続き、職員の危機管理意識の向上を図りたい。

感染症防止対策として、保育室、廊下、手すり、ドア、階段の消毒を毎日行い感染症が出た場合、病名、感染者数を保護者に知らせる等、早目の対応と予防を呼びかけ効果があった。

(2) 子ども一人ひとりの健やかな発達を支援する保育

各年齢に合った「基本的な生活習慣の確立」と「体力づくり」を支援しましたが、第三者評価による保護者アンケートで、「以前より外遊びが減少したので、増やして欲しい」の要望があった。天候状況にもよるが毎日、園庭で遊んでいる事や縦割り保育(異年齢交流)など、みんなで楽しんでいる事を伝えた。体力が低下しないよう年齢に合った戸外遊びを工夫し取り組みたい。

食育においては、菜園活動やクッキング活動を通して食への興味関心を深める事ができた。又、アレルギーのある子どもについては、栄養士が保護者の相談に丁寧に対応し、専門性をアピールし存在を示す事ができた。

(3) 専門機関・教育機関・他施設との連携

障害児保育については、2名の加配保育士が付き各機関と連携して支援に取り組むことができたが、継続できるよう努めたい。

地域交流に関しては正直、余力がなく近隣機関や地域子育て家庭との交流は出来なかったので開拓していきたい。

(4) 適切な運用と経費節減の取り組み

光熱水費については、積極的に取り組み節約する事ができた。又、「特別保育事業」「乳児保育の充実」についても、目標を達成する事ができたので、より高い目標を立てて質の高い保育が提供できるよう、厳しい経営の中、工夫しながら前向きに頑張っていきたい。

高齢者雇用特別加算を受けることが出来たので、特に乳児保育におけるノウハウや技術を若い職員にしっかり指導し伝えたい。

(5) 職員の資質向上を図る

第三者評価では『民営化当初は、様々な意見が寄せられたが、誠意をもった迅速な対応や職員の日々の取り組みが好感をもって受け止められ保護者からの高い評価を得た。』と評価頂いた。保育内容をはじめマニュアルや書類関係など広範囲での見直しと改善を図る事ができた。助言や指導については、今後の課題として前向きに取り組み資質向上につなげたい。

保護者との関係では、若い職員が多いので説明や対応がうまくできず苦情として上がることもあった。挨拶・言葉遣い、服装については、気長く指導していきたい。

危機管理や専門性は、民営化したばかりで保護者の注目度が今だ、非常に高いので、信頼が得られるよう自己研鑽に努め対応していきたい。

3. 研修計画

- (1) 施設内 職員会・給食検討会(月1回)・ヒヤリハット(月1回)・安全対策委員会・先任者会・主任会(随時)
- (2) 施設外 「保育協議会主催研修会」園長・主任・乳児・幼児・障がい児・給食
「日本保育協議会主催研修会」
「乳児保育研修会・愛媛県保育士研修会」
「その他の研修会」

給食担当者会議・人権教育研修会・幼児教育実技セミナー・事務員研修・本部研修 等

4. 行事計画(年間)

- 4月 入園式・家庭訪問・園児健康診断・蟻虫検査・誕生会
- 5月 遠足・わくわくお楽しみ会・誕生会
- 6月 歯科検診・時計屋見学・保育参観・誕生会
- 7月 七夕の集い・プール開き・誕生会
- 8月 プール大会(バイキング給食)・誕生会
- 9月 老人福祉施設招待・敬老の日はがき投函・誕生会
- 10月 運動会・老人福祉施設慰問・お祭りごっこ・火遊び防止教室・交通安全教室・蟻虫検査・誕生会
- 11月 七・五・三のお祝い・園児健康診断・歯科検診・職場訪問・誕生会
文化祭参加・人形劇観劇
- 12月 新年度入所受付・保育参観・クリスマス会・餅つき・誕生会
- 1月 入所面接・記念撮影・ハートネットワーク撮影・誕生会
- 2月 節分・生活発表会・老人福祉施設招待・誕生会
- 3月 交通安全教室・お別れ遠足・お別れ会・誕生会・卒園式

* (毎月実施) 誕生会・身体測定・避難訓練・食育活動(菜園・クッキング)

5. 地域交流・ボランティア・実習生について

(ア) 地域交流

・お誕生会・むつみの家・わくわくお楽しみ会・運動会・生活発表会等

(イ) ボランティアの受け入れと実習生の受け入れの取り組み

・河原学園生 (1名)

(ウ) 実習生の受け入れ

・香川短期大学生 (1名) 聖カタリナ短期大学(1名)

(エ) 体験学習の受け入れ

・中萩小学校 (28名)・中萩中学校 (3名)

養護老人ホーム
新居浜市立慈光園

施設長 佐々木 文良

平成25年度 事業報告

1. 運営方針

高齢化に伴い身体面や精神面の低下が進み、自立した生活が困難になってきている入所者の増加や、新たに入園される方におかれても介護度を持った方が多くなってきているため、入所者一人ひとりの自立度に応じた処遇に向け、デイサービスなどの介護サービスの利用や園内での諸行事を通じての健康維持や日常生活支援により穏やかに送れるように努めてまいりました。

また、医療機関をはじめ介護福祉施設と連携を図りながら、生きがいを持って日常生活を送れるよう自立支援に必要なサービスを提供し、入所者の生活力を高め社会参加の助長を継続して行う事を指定管理者として支援してまいります。

2. 重点課題と具体的取り組み実績

(1) 入所者本位の支援の充実(誠実な福祉)

入所者一人ひとりの心身の状態に合った処遇計画に基づき、掃除、洗濯、着替えなど可能な限り自分で行えるように努めました。

入所者の朝礼において唄、軽体操の実施による健康維持を図りました。

充実した園生活を過ごしていただけるよう、クラブ活動、グランドゴルフやカレンダー作りなどレクリエーションや創作活動などへの積極的な参加を促しました。

共同作業で庭木の手入れ、草引きや菜園での花や野菜作りにより自立した生活を促すよう努めました。

嗜好調査を実施し入所者の希望を考慮し、美味しく楽しく食事ができる献立内容で提供するように努めました。

(2) 地域社会に貢献できる施設づくり(誠実な福祉)

地域交流が参加可能な行事の開催に努めました。

金栄小学校や公民館活動における音楽会、文化祭、運動会などに積極的に入所者が参加するよう努めました。

(3) 地域の社会福祉資源の有効活用(確実な知識と技術)

高齢化などにより慈光園での生活が困難となった入所者に対して協力医療機関や介護関係事業所の協力を得て、その人に適した他施設への処遇替えを行えるように努めました。

処遇計画に基づき、デイサービスなどの介護サービスの利用により、心身の健全化に努めました。

(4) 人材育成の推進(確実な知識と技術)

職場内での勉強会や老人福祉協議会などが主催する各種研修会に参加し知識と技術の向上と福祉資格の取得を図ってまいりました。

ケース検討会や事故防止委員会などの開催により個々の問題解決を図ることにより職員の資質の向上に努めました。

(5) 効率的な施設運営(堅実な経営)

物品等の適正な在庫管理を行い、無駄が生じないように努めるとともに購入にあたっては見積りを取るなどの経費削減に努めました。

入所者に節電、節水に努めるよう呼び掛け、照明や空調機器の稼働時間の減少に努めました。

入所者のデイサービス利用時や、外出時の食事が不要な場合に欠食届出を行うよう徹底を図るように努めました。

3 . 研 修

(1) 施設内研修

職員全体会での研修

個人情報保護、プライバシー保護、感染症事故防止対策、接遇等

(2) 施設外研修

四国老人福祉協議会、愛媛県老人福祉施設協議会、東予老人福祉施設協議会主催の研修会

愛媛県社会福祉協議会、新居浜市社会福祉協議会主催の研修会

西条保健所主催の研修会

4 . 行事報告

4月 草引き

5月 芍薬見学・草引き・花の種まき・庭木手入れ

6月 菖蒲見学・風船バレー・パラソル輪投げ

7月 グランドゴルフ・七夕飾り・お買いものツアー

8月 盆踊り大会・スライドシアター・スカットボール・ストライク9

9月 敬老会・カフェドライ・壁画作成

10月 ふれあい大運動会・生き生きフェスティバル・お買いものツアー

11月 風船バレー・グランドゴルフ

12月 クリスマスコンサート・餅つき大会

1月 初釜・新年福笑い大会

2月 節分・新年お楽しみ会

3月 チューリップ観賞会・花見歩行会

5 . 地域交流、ボランティア

(1) 地域交流

- ・ 金栄校区盆踊り
- ・ 金栄校区文化祭
- ・ 春秋の太鼓台訪問
- ・ 金栄小学校音楽会
- ・ いきいき幸せフェスティバル
- ・ 金栄小学校ツリー点灯式
- ・ ウェイトリフティング餅つき大会

(2) ボランティア受入

- ・ 書道クラブ
- ・ 絵手紙クラブ
- ・ お話会クラブ
- ・ 唄クラブ
- ・ さくら乳児園
- ・ 十全保育園
- ・ 西中学校
- ・ 金栄小学校
- ・ 一宮グループ
- ・ 民謡同好会
- ・ フォークダンスグループ
- ・ 三味線グループ
- ・ 上部老人センター大正琴演奏グループ